



社会福祉法人 清水あすなろ福祉会

法人だより

福祉情報を発信します

風の子保育園・あすなろの家・ともの家

No.26 2022年1月20日
(令和4年)

静岡市清水区山原 871-2
Tel 054-363-2046
Fax 054-363-0522

2022年 今年もよろしくお願ひいたします



2年続いたコロナ禍は小康状態を保っていましたが、急速な感染拡大で先行き予断を許さない状況です。コロナに気をとられた2年間、この間に社会福祉分野での受益者負担増加と後退が着実に進行しています。「法人だより」では、今年もそうした社会福祉分野での動きを、できる限り皆さん方にお知らせし、社会福祉事業を守り社会に貢献してゆきたいと考えております。今年もよろしくお願ひいたします。 理事長 杉井則夫

ともの家

2年分の思いの詰まった

感謝のつどい



12月5日 ハートピア清水で開催



昨年は中止、今年は会食なしで

昨年はコロナ禍の影響で未開催、今年は会食なしの2時間を、はーとぴあ清水で行う運びになりました。

2年分の思いが詰まった会は、五感を刺激することがテーマ。一つ目はステージ上の生花で香りを感じ、二つ目は、仲間達が余暇活動として楽しんでいるダンスワークと港かっほれメドレーで動きを楽しみ、三つ目は静岡を満喫しよう！と少人数で出掛けた、各所での仲間達の和やかな表情を捉えたムービーに、会場は笑いの華が咲きました。四つ目は、プロの話し家さんの話術に触れ、その世界観に引き込まれ、また職員の朗読タイムより、コミュニケーションに苦戦しつつも豊かに生きていきたい願ひが伝えられました。

やっぱり顔を合わせるって素晴らしい！！

終わりの言葉は、聴力が弱くなった仲間が手話に出会い、明るくなった日常の如く、爽やかな挨拶が披露され、五つ目のお菓子のお土産で気持ちはいっぱいになり、今回参加出来なかった方への想いを残しつつ、やっぱり顔を合わせるって素晴らしい、と感慨無量の思いが溢れた会でした。

。。。新年にあたり 園長・施設長より挨拶申し上げます。。。



風の子保育園



白鳥園長

「子ども、保護者、職員にとって」に立ち戻り、よりよい保育を

私たち風の子保育園は、保育理念に立ち戻ることを大切にしています。

「保育園が楽しい」「また、やりたい」という子どもの声を大事にし、保育園の中で「楽しい」を増やしていきたいと思います。0歳から5歳までの子ども一人ひとりの育ちを丁寧に捉え、子どもの発達に合わせて保育していくことを大事にしたいと思います。そして、子どもの育ちを保護者と共感し合い、時には立ち止まり一緒に考えていきたいと思います。

コロナ禍を通して、行事の意味や今まで通りではないやり方を職員で見直し、「どうだったらできるのか」を考えてきました。

度重なる状況の変化により、試行錯誤の日々が続きますが、「子ども、保護者、職員にとって」に立ち戻り、より良い保育を目指していきたいと思います。

あすなろの家



千葉施設長

「本物のケア・本物の接遇・本物の繋がり・私たちが」を深め

令和3年度は、4つの柱（本物のケア・本物の接遇・本物の繋がり・私たちが）をより深め、コロナ禍の中でも「~だからできない・やらない」ではなく、「~だけどこんなやり方・やれる方法で動く」、とにかく動いてやってみることを、あすなろ職員全体で実践してきたと思っています。

来期も、依然として新型コロナウイルス感染の危険と背中合わせの状況は変わりませんが、今年度の取り組みをさらに発展させ、ご利用者を、ご家族を、地域を、そして私たち職員自身が元気になる取り組みを考え、実行してみたいと考えております。今年もよろしくお願いいたします。

ともの家



瀧戸施設長

多様性を認め合い、尊重し合える社会の実現を

障害者福祉の世界に関わって38年が経ちます。「障害のある人とお付き合いできる仕事につきたい」そんな安易な気持ちで飛び込んだ仕事です。

全裸で庭をウロウロする園生（最初に勤務した知的障害児施設では子供たちを園生と呼んでいました）の後ろを、なんでこんな行動しているのかわからなくて、やる気を欠き、ただただついて歩いていた私を見て、「園生のことを尊重して、優しく見守っていて素晴らしい」と、理事長に褒められた苦い思い出が蘇ります。

障害のある仲間たちの、日々の困りごとや生きにくさに寄り添い、その方法を模索し続けていく中で、人、環境、社会そして国の政策にも目を向け、知る努力が必要だということに行き着きました。

ともの家の使命は、地道に理解者を増やしていくことに尽きます。多様性を認め合い、尊重し合える社会が実現するように。新たな年の始まりなので、理想を語らせて頂きました。

福祉を考える

「障害者総合支援法」の定時改定で見直しを検討

どうなる？ 障がい者グループホーム

…グループホームで生活する障がい者が1人暮らしを求められる？

理事 苺和弘美

通常国会の中で、「障害者総合支援法」の定時改定が行われようとしています。その中で、大きな課題となっているのがグループホーム制度の見直しです。

グループホームが福祉サービスとして位置づけられてから、10年以上が経過し、利用者の重度化・高齢化、利用者の中に一人暮らしや家族、パートナーとの同居を希望する者が存在するなどの背景があります。

今回の見直しは、厚労省の下に作られた検討委員会の事業報告書「障害者支援の在り方に関する調査研究—グループホーム、地域生活支援の在り方—」により進められています。



住み慣れた地域で生活するための障がい者グループホーム

—全国で14万人が利用

障がいのある人が共同生活を行う小規模の住居で、2015年に施行された「障害者総合支援法」が定める福祉サービスの一つです。障がいがある人が住み慣れた地域で生活するために作られ、全国で約14万人が利用しています。

「自立生活移行支援型」のグループホームを新たに提案、検討

…区分の低い人は一人暮らしに？

今回、提案されたのが、一人暮らしやパートナーとの同居を望む人に向けた自立生活移行支援型のグループホームの制度化です。そして、これまでのグループホーム(一般型)との対象者の整理の必要性が示されています。対象者の明確化を図るため、客観的指標として障害支援区分による線引きの導入も検討されています。結果、区分の低い人は一人暮らしを目指すことが求められることとなります。

外部サービス利用や家賃補助の見直しも

重度障がい者の受け入れ態勢を整えつつも、個人単位のヘルパーについては、グループホームの従業員が対応できるよう人員基準・報酬を見直す方向性がだされています。

また、グループホームの家賃補助により、地域で一人暮らし等が可能な障がい者がグループホームに留まっているとの指摘があるという、家賃補助制度の見直しも図ろうとしています。

自分らしく生活する場＝グループホーム利用を制限？

利用者に不利益が生じないように、国会・社会保障審議会に関心を！

今回の改定では、増え続けているグループホームの利用者を制限し、増加した費用を抑えようとする意図が感じられます。

障がいのある人がどのように地域で暮らしていくかは、本人の希望によるものです。グループホームはあくまでも、個々に応じた支援を受けながら自分らしく生活する場であってほしいと思います。

ともの家にも、「とも」「SUN」の2つのグループホームがあります。今回の改定で、利用者に不利益が生じないように、国会、社会保障審議会の状況に関心もっていくことが大切です。

法人主催

地域福祉懇談会

を開催

コロナ禍が続くなかで
評議員と理事・監事に限定

20才を過ぎたあすなろに、「私がやりたかったことをやってくれて、とてもうれしい」

(元施設長・元理事長 小林豊子評議員)

あすなろのスタッフの対応で「一人でがんばらなくてもいいんだ…、と思った」



私たち“あすなろ福祉会”は保育・高齢者・障がい者の三施設を運営していますが、地域的に離れていることもあり、あまり相互交流はありません。

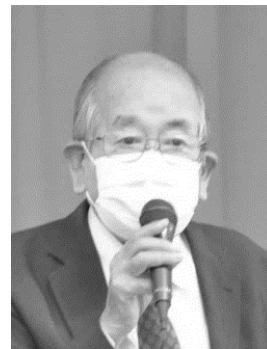
そこで、各施設の情報・ご意見・要望を共有するため、各施設の関係者・地域の福祉関係者が一同に集まる「地域福祉懇談会」を2017年に開催。

その後毎年開催してきましたが、昨年はコロナ禍のなかで“評議員懇談会”として、今年もコロナ禍が続くなかで11月13日(土)に、出席を評議員に加え理事・監事に限定して開催しました。

各施設より：HP・スライド・インスタグラムで様子を紹介

冒頭、杉井理事長が、コロナ禍の中で各施設は細かな対応をしながら日常業務を続けてきたので、スライドも使って様子をお知らせします、と開会のあいさつをしました。各施設からは、HP やスライド、インスタグラムを利用して、業務の様子が紹介されました。

ご出席の評議員さんからは、地域の福祉活動のご報告とともに、施設に対する質問・感謝の意・賛辞などが出されました。一部ですが、ご紹介いたします。



あすなろに感謝・賛辞が寄せられました



元あすなろの家施設長で元法人理事長でもある小林評議員からは、「あすなろではここができる前から私がやりたかったことをやってくれていて、とてもうれしかった。あすなろは子どものようなもので、20才を過ぎて立派に育った子どもに親はうれしいものです」との賛辞がありました。

また、あすなろの家建設の原動力ともなった「つくる会」の中心の一人であった新宮評議員からは、「つくる運動のなかで認知症について理解しているつもりだったが、いざ家族当事者になってみて、何にも理解していなかったと思った。一人でがんばってきたが、最後はあすなろの特養にお願いしようと思ったら、すごく気が楽になった」と、職員の声かけや話に感謝と期待が寄せられました。

